



令和6年度の学校経営について

I 学校教育目標 『自立と共生 誇りと信頼』について

(1) 「自立」の目指す姿 **《自立》学び続ける学校 ⇒ 『子供も教員も学び続ける学校』**

◆将来の変化の激しい、予測できない時代を生き抜くため、「自立した学習者」として学び続け、持続可能な社会の担い手となるための大郷小の教育

- ①教授型、知識の詰め込みの学習指導ではなく、「学ぶ意義」「学ぶ必要感」を感じながら取り組み、「学ぶ成果」「学ぶ喜び」を小学校で体感することが、「学び続ける」原動力となる。
- ②「主体的・対話的で深い学び」が実現した問題解決的な学習や探究型の学習は不可欠であり、指導者は授業改善に日々努めなければならない。

(2) 「共生」の目指す姿 **《共生》地域と共に歩む学校 ⇒ 『自他のいのちを大切にする学校』**

◆全ての人がお互いの人権（私たちが幸福に暮らしていくための権利）や尊厳（その人の人格を尊いものと認めて敬うこと）を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる「共生社会」をつくるため、その一員としての学びや心の成長を支える大郷小の教育

- ①異なる立場や考え、個性や特徴、価値観を認め合い、互いに支え合い、学び合う。
- ②自他の「いのち」を守り、大切にする。
- ③いのち輝く生活を目指して主体的に取り組む。

(3) 「誇り」の目指す姿 **《誇り》確かな学力を育む学校 ⇒ 『地域を愛し、誇りにする学校』**

◆地域で学び、地域を題材とした学習を通して、大郷の良さを理解し、地域を誇りに感じ、愛する心を育てる大郷小の教育

- ①地域で学んだり、地域の題材で学習したりする機会は各学年にあるが、先人の苦労や思いや願いに触れたり、地域を深く理解したりすることは非常に重要である。
- ②小学生として、地域の一員として何ができるのか、これから何をしていく必要があるのか、将来何をしたいのかなど、地域の一員としての意識や考えを持つこと、地域の発展に何かできることはないかなどの「発展的な課題」にも挑戦させ、意識の高揚を図る。

(4) 「信頼」の目指す姿 **《信頼》多様性に関かれた学校 ⇒ 『応援され、支援される学校』**

◆誰一人取り残されず、個々の個性を尊重する学びを実現することや、学校への理解が進み、安心・安全な学校として認識されることによって生まれる頑強な絆を土台とした大郷小の教育

- ①先生方が常に研鑽を積み、個別最適な学習や教育DXを実現する。
- ②「大郷小が楽しい」「大郷小で学ぶと力がつく」を実現し、継続することに努める。
- ③保護者の皆様、地域の皆様との共通理解と共通実践によって、共に子供の学びを支える。
- ④学校の姿勢を堅持し、理解を得ることによって、それぞれのお立場で学校を支えていただくことができる「チーム学校」を目指す。

2 今年度の取り組みの重点

(1) 子供の育ちに向けた実践研究と授業改善

- ①資質・能力を高める「主体的・対話的で深い学び」の具現化に向けた実践研究
→「子供主体の学び」の日常化、「主体性」のとらえ直しと整理

【校内研究テーマ】

「自ら楽しい暮らしを創る子ども ～「子ども主体の学び」を足場に据えて～」

【学びを創る3本柱】

- ・主体性…自分事になる価値ある学び
- ・協働性…必要感ある仲間との交流
- ・自立性…自らのあり方への気付き

- ②「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の具現化に向けた実践研究
- ③子供主体の学びとカリキュラムマネジメントの連動
- ④子供の育ちに繋がる教師の支援についての研究

(2) 子供主体の学びの日常化

- ①行事や縦割り活動、委員会活動（係活動）、生活科、総合的な学習
→子供の手で「暮らし」を創造できるよう支援、自分たちで創る諸活動の実現
- ②全校縦割宿泊学習 → 本気で交流する縦割班活動へ
- ③居心地のよい学級 → 子供たちの手で創るよう支援
- ④子供が子供に思いや考えを伝える場面の充実
- ⑤子供自らが思考し、協働する場面の充実
- ⑥カリキュラムマネジメントを核とした育ちの実現

(3) 安心・安全な環境整備及び、子供の判断力の醸成と育成

- ①「いのちの学習」の充実と、自他の尊厳やいのちを全うする意識の高揚
- ②誰もが安心・安全を感じることが出来る教育環境の整備
- ②青パト（見守り隊）との連携による登下校の安全確保
- ③地震や水害等における緊急避難体制の確認（市との連携）
- ④いじめ防止の取り組みと、いじめの早期発見・早期の丁寧な対応
- ⑤子供の危機意識や判断力の育成 → 考える場の設定

(4) 家庭・地域との連携及び、教育資源の活用

- ①学校を開き、共通理解と共通実践による子供への指導を大切にする
- ②学校の経営や運営を共に考え、支えていただく学校運営協議会
- ③地域の諸会合での学校からの情報発信
- ④学校便りの活用 → タイムリーな情報発信
- ⑤保護者目線に立った学級懇談会や個別面談等の実施
- ⑥子供の育ちを支える地域の方々との連携

(5) 「ウェルビーイングな学校づくり」

◇学校のウェルビーイング

「幸せ・豊かさ・満足感」を子供・教職員・保護者・地域の全員が感じられるために、それが持続するために、自分や自分が所属する組織で、何ができるのか、何をしていくのかを全員が意識し、できるところから始めていくこと。